

シルバーに入会して思うこと

久米一郎

私がシルバーに入会したのは、平成二十三年の東日本大震災のあった年の九月です。

はや十二年になりますが入会した動機は、体を動かして何かお役に立てる仕事はないものかと常、日頃から考えていました。

初めて紹介して頂いた仕事は須坂市埋蔵文化財発掘調査でした。

この仕事は、市内の調査対象の各現場を回り、道路の拡幅、家の新築等、発掘調査をするものです。

真夏の暑い日や冬の寒さの中でも作業を行っていましたので、体には大変堪えました。

これでは体が続かないと思い、年を取っても仕事を続ける事が出来る様、体を鍛えなければと、ジムに通い始めました。

足腰を中心に筋肉を強化して今も続けております。

一つの発掘現場が終了すると、同じ仲間同士での打上げの一杯は、良い交流の場となり親睦を深めるには、大変有意義でした。

発掘現場での大きな土器の破片を見つけた時などは、大きな歓声が上がり興奮する時が度々あった事が思い出されます。

雨の日などに行う遺物の水洗いや土器の接合等も経験させていただきました。

埋蔵文化財の整理室(旧夏端保育園)では、須坂市の出土品が特別公開されました。

大勢の皆さんが見え、喜んでいただきました。

これからは、シルバー人材センターの催し物や講座には積極的に参加し、スキルアップを図っていきたいと思っております。

昨年八月の公開講座「野菜の育て方」、九月の「お掃除講座」に参加させて頂き、大変勉強になりました。

人生百年時代、高齢者の退会される方や就業が難しくなる方が増え、シルバーの取り巻く環境は厳しい状況ですが、まずは自分の身の回りから、仲間になって頂ける方に声を掛けていきたいと思っております。



高橋農園での交流の際、委員長としてあいさつ



発掘調査就業時、自分で見つけたお皿

シルバーの会員になって

大原 彰夫

シルバー人材センターの会員になってはや十数年になります。

入会時には、果樹栽培の講座を受講して、当時須坂市で多く栽培されていた巨峰葡萄とふじりんごの基本的な作業を学び、農家の手伝いをしました。

葡萄は、6月初めの房切りに始まり、粒が大きくなり一房の粒の数を揃える適粒、房毎の袋掛け・笠掛けなどの仕事です。

ふじりんごは、実が紅く色づくための葉摘みや実をつけた中の形のよい1個や日当たりのよい実を選んで残すなどの仕事です。

次は、庭木の剪定講習が旧学校給食センターや高山村You游ランドで講師の実技を見ての作業があり、剪定班に入れていただき、家庭の庭木の剪定の仕事をしました。

学校や公民館などに事務用品やトイレトペーパーなどを届ける事務用品店の配達の仕事もしました。

最近まで一番長く8年程続いたのは、スーパーセンターの品出しの仕事です。

いずれの仕事も先輩の方の指導やチームワークの支援があって働くことが続けられたものと感謝をしています。

また発注されたお客様の満足が得られるように自分で気をつけて事故をおこさないように安全に留意して仕事を行う事が大切に思いました。

私は、日野地域班の所属で2年間班の役員も経験させていただきました。

さて、令和5年度よりシルバー人材センターの理事を勤めることとなり、主に会員互助会「みつば会」を担当致します。

「自分に何ができるのだろうか？」と身の引き締まる思いですが、9月の理事長杯マレットゴルフ大会と10月のメセナのふれあい広場での野菜販売、12月の湯つ蔵んどでの会員交流研修会は、みつば会の幹事の皆様の準備により無事盛大に開催出来ました。

本年3月には、会員作品展・チャリティーバザーを開催予定です。

みつば会の活動には、上記の他に親睦旅行、サークル活動、ボランティア、講習会・研修会などがあります。

様々な活動を遂行する事に当たって、関係する皆様のご支援とご協力をいただきながら、一人でも多く会員の皆様が「みつば会」の活動に参加いただき、互いに楽しく仕事をしていただけるよう微力ながら精一杯務めたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



理事長杯マレットゴルフ大会開会式



ふれあい広場参加